

# よえもん

-Yoemon-

今月のことば

こんにちは！  
秋が待ち遠しい日々が  
続いていますね。

2013年9月 第5号

シリーズ  
よえもん

第4回 大洲の地で...



よえもんさんが10歳の時(1617年)、米子(今の鳥取県米子市)の藩主であった加藤貞奉が、大洲(今の愛媛県大洲市)へ転封されます。転封とは、領地が別の土地へ移ることです。

お殿様の転勤のようなものです。

当然、この加藤候に仕えていたよえもんさんのおじいさん、そしてよえもんさんも大洲に移り住むことになりました。

ここでよえもんさんは、『庭訓往来』と

『貞永式目』を勉強します。

『庭訓往来』は、手紙を書き方を学ぶために使われていた書物。『貞永式目』は、別名『御成敗式目』といます。鎌倉時代に制定された51カ条からなる武士のための法令で、江戸時代には習字の手本にも使われていた書物です。



この2つの書物を学ぶことで、よえもんさんは文字への理解を深めています。

記念館さんぽ

9月の下旬から10月にかけて、金木犀の花が咲きます。

オレンジ色のかわいらしい花は、一度は目にされたことのある花ではないでしょうか。

陽明園内にも藤樹門のそばに金木犀が植わっています。

犀という字は、動物の「サイ」を意味します。

木の肌がサイの肌のようなので、「金木犀」という名前なのだそうです。



思い出は  
学びし本の心より  
千里を通ふ  
誠意なるな



書・瀧田瑞穂さん  
出典・藤樹先生全集二

『学び始めた時の気持ちは大切ですが、求めるべき真の誠は遠くにあるということをおぼえてはいけません』  
この和歌は、遠く大洲(愛媛県大洲市)から学びに来ていた門人に送ったものですので、「藤樹書院で学ぶことよりも大洲という遠い所から学びに来た誠実な気持ちを忘れないでください。(また、その誠実さを積み重ねて得られる『真の誠』は遠くにあるということも忘れないでください。)」といった意味になります。  
下の句はカッコの中のおに2つの意味にとることができます。  
教科書に載っていることよりも、「学ぼう!」という姿勢を忘れてはいけません。けれども、最も忘れてはいけないことは「学ぶ」に誠実に向き合い続けることなのです。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69

TEL 0740-32-0330  
FAX

西晋一郎博士の回顧展

開催中